

3. 3つの基本機能のさらなる強化

(1) 教育

応用力や実践力を備えた国際力豊かな高度人材の育成を行う

社会変化に対応する人材育成

Society 5.0時代などに求められる人材や高等教育の目指すべき姿など、大学への社会的要請（経団連・中教審より）を踏まえ、幅広い知識や専門領域の基礎的知識に加え、実践的態度、倫理的態度、創造的な感性や知性という広義の教養を備え、卒業後も学び続ける姿勢を身に付けることができるよう全学共通の基幹教育や高度専門教育を充実し、社会変化に対応する人材育成を実施する。

5つの基礎力を育成するための基幹教育

教養、専門的能力、情報収集・分析力、行動力、自己表現力といった5つの力を身に付けさせられる科目体系を学生に示し、教務システム強化によって、質を保証する。そのために基幹教育機構を設置するなど教育マネジメント体制を確立する

- 様々な学問分野への志向性を持つ学生の多様な考えを一堂に会して融合させ、確かな論理的思考能力と豊かな感性や、倫理的態度を身に付けさせ、また、卒業後も続く友誼的関係の醸成、専門教育への確実な連結を深める教育を行う。

高度な専門性を有する人材の養成

基礎的・応用的研究をリードする指導的研究者、世界で活躍する若手研究者を育成する。

複雑多様化する社会を支え牽引する高度専門職業人を育成する。

大阪の発展に貢献する専門職業人、専門的な知識・技能等を有する企業経営者、行政職員、学校教員などを養成するため、社会人のリカレント教育を充実させる。

教育がめざすもの ～大阪から世界へ、世界から大阪へ～

基幹教育、高度専門教育の充実
グローバル・コミュニケーション教育、地域志向教育の充実
副専攻プログラム

2040年頃の社会変化

国連:SDGs「全ての人々が平和と豊かさを享受できる社会」
Society5.0 第4次産業革命
人生100年時代 グローバル化
地方創生



社会から求められる人材

大学に求められる課題対応

〔経団連〕採用と大学教育の未来に関する産学協議会
中間とりまとめ共同提言

Society 5.0時代に求められる人材と大学教育

○論理的思考力と規範的判断力をベースに
社会システムを構想する力を備えた人材

- ・高度専門職に必要な知識と能力
- ・課題発見・解決力 ・未来社会の構想・設計力
- ・論理的思考力と規範的判断力
- ・リテラシー（数理的推論・データ分析力、論理的文章表現力、外国語コミュニケーション力など）
- ・忍耐力やリーダーシップ、チームワーク、学び続ける力など

〔中教審〕2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）

必要とされる人材像と高等教育の目指すべき姿

予測不可能な時代
を生きる人材像

- ・普遍的な知識・理解と汎用的技能を
文理横断的に身につけていく
- ・時代の変化に合わせて積極的に社会
を支え、論理的思考力を持って社会
を改善していく資質を有する人材

学修者本位の
教育への転換

- ・「何を学び、身に付けることができた
のか」+ 個々人の学修成果の可視化
(個々の教員の教育手法や研究を中心に
システムを構築する教育からの脱却)
- ・学修者が生涯学び続けられるための
多様で柔軟な仕組みと流動性

学生の可能性を伸ばす教育改革、教育の質保証

公立大学法人大阪の誕生
新大学の教育の理念の再構築

大学統合

これまでの2大学の教育の強みの継承

2大学の幅広い学問分野
教育科目の多彩なバリエーション（約9,000科目）
外部からの高い教育実践の評価
「価値ある大学2020年版 就職力ランキング」
「人事担当者が選ぶ大学」公立1位（全国10位）府立大学
（前年度は、市立大学が公立大第1位）など



共通教育の新たな理念構想

（全学に共通する教育）

○全学で行う共通の教育を共通教育とし、全人格的理解を加えた広義の教養の涵養、専門教育への誠実な接続、卒業してもなお学び続ける姿勢を涵養する。

・そのために、これまでの人文社会、自然科学、生命科学に関する幅広い知識や専門領域の基礎的知識（狭義の教養）に加えて、社会生活に求められる実践的な態度、志向性、倫理的態度（市民的教養）、創造的な感性と知性を組み入れた教育に再整備 **教養の再定義**

○過去、現在、未来に至る世界・宇宙に広がるあらゆる現象、身近な地域の現象を再教材化 **科目内容の再点検**

○生きた教材を活用し、地域から世界に至る様々な矛盾、未解決な事象、介在する課題を解決していく思考力と態度を身につけさせる。 **アクティブラーニング 科目の開発の加速**

○今後ますます必要となる、高い汎用性のある語学力 **語学教育改革の実施**



専門教育の新たな理念構想

○1学域11学部、15研究科の教育組織整備

○14のWGによる両大学教員集団の専門教育の理念・戦略性の高いカリキュラム構想整備検討

基幹教育の理念

「地域に根差し世界に羽ばたく人の育成」を志向する、多様な世界に通用する新たな教養教育

新大学による新たな基幹教育の実現

様々な学問分野への志向性を持つ学生の多様な考えを一堂に会して融合させ、全人格的な理念の理解、卒業後も続く友誼的関係の醸成、専門教育への確実な連結を深める教育を実施する。

基幹教育科目の教育構成

総合教養科目

- ・キャリア教育科目（**拡充**）
- ・数理・データサイエンス基礎科目
- ・文芸、芸術、社会貢献

初年次教育科目

<必修>：基幹ゼミナール（**拡充**）
多様な学部・学域（学問分野）の学生と協働して能動的な学習を行う アカデミックライティング

情報リテラシー科目（**拡充**）

大学での学びを支えるために必要なICT技術
BYOD (Bring Your Own Device)を前提とする

外国語科目

英語 卒業までにCEFR B1 以上（**新規**）
初修外国語

基礎教育科目

数学、物理学、化学など理系専門課程の学修に必須な基礎を磨く

健康・スポーツ科学科目（**拡充**）

人生100年時代に向けた健康理解と実践

資格関連科目（**拡充**）

多様で複雑な能力が今後ますます教員に求められる基幹教育機構が教職科目を提供し、大学全体で支える

各専門教育への確実な連結

基幹教育

【ポイント】

1. 世界の様々な矛盾の解決に挑戦していく姿勢と方法を身につける授業への改善 哲学、歴史等人文系科目を中心に「自ら課題を発見して解決策を見出す力」の強化
2. 教養教育の基盤の確かさと世界を見通す普遍性の上に、それぞれの専門分野において目指す科目体系 バランスを意識した6（+1）科目群の配備
3. 「教養」、「専門的能力」、「情報収集・分析力」、「行動力」、「自己表現力」を身につけさせる教育目標 ナンバリング体制（授業科目に分野や難易度表示）等による力の可視化
4. 卒業後も学び続ける姿勢をもち、確かな論理的能力、社会に対する倫理的態度を持った学生の形成 外部講師も交えた科目群ごとの教育目標計画の明確化
5. 専任の教員を擁する基幹教育機構による全学基幹教育のマネジメントの実施 アクティブラーニングの開発、基幹教育から専門教育への誠実な接続体制の確保

新大学の「基幹教育」とは

我が国の初等中等教育（留学生においては海外の同等課程）から接続した教育としての高等教育への展開、生涯にわたり継続的・発展的な学修を行う態度を身につけさせることの実現、世界市民として活躍するために当然に身につけるべき教養及び専門教育に向けた体系的な準備学修を行うという意味。

本学学士課程教育の大きな基となり教育体系の重要な幹の要素をなすものという意味を込めて、初年次段階の教育を「基幹教育」と定義する。

新大学における教養の定義

異なる文化や思想がぶつかりあう社会において、その異なる文化や社会、またそれぞれに属する個人を含め理解し、自ら属する文化への深い理解に根ざしながらも、より実践的な倫理的態度・志向性と他者への共感をもちながら、すべての文化に共通する「知」である論理的能力あるいは創造的な感性を手がかりとして、待ち受ける世界の課題に挑戦できる能力

6（+1）科目群

総合教養科目

思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合し活用できる能力を身につけるために総合教養科目群を配置。人間と社会、科学と技術、社会と歴史、環境と健康、アートなどの文芸と芸術に関して、それぞれの専門家による非専門家対象の教育を行う。

初年次教育科目

高等教育での主体的な学びを大学入学直後に身につけるために1年前期に基幹ゼミナールを必修科目として配置。多様な学生と協働して能動的な学習を行う中で、大学での学びのための技法（アカデミックライティング）と主体的に学ぶ姿勢を身につける。

情報リテラシー科目

第4次産業革命、Society 5.0といった社会構造の変革期を迎える中で、情報リテラシーを身につけることは高等教育においてより重要。大学での学びを支えるために必要なICT技術についての技能を身につけることを授業目標とした必修の実習科目。実施環境は、BYOD (Bring Your Own Device)を前提として通常の講義室で実施可能な形とする。

外国語科目

1. 英語科目
世界共通語としての英語についての4技能（Reading Listening Writing Speaking）について、卒業までに一定レベル（CEFR B1以上）に達することを旨とし必修科目として1年生 4単位、2年生 2単位の科目を配置。スキル習得の実習科目として少人数規模で実施する。
2. 初修外国語科目
英語以外の外国語1つを選択必修として配置。CEFRを参考に当該言語の4技能の基礎を身につけ、異文化間の仲介能力の養成を目指す。大学で初めて学ぶ言語であり、少人数クラスでの教員・学生間の双方向性を確保した実習科目とする。

健康・スポーツ科学科目

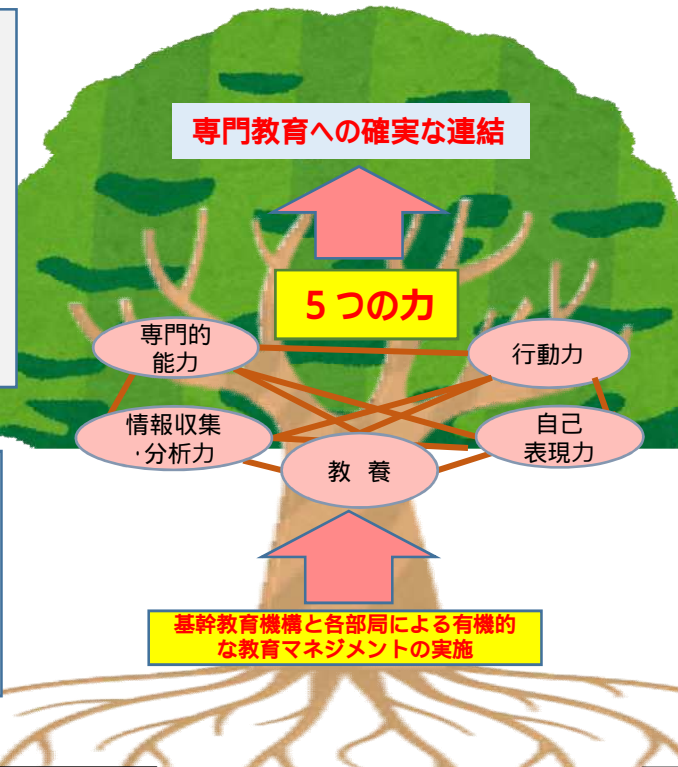
人生100年時代と言われるように高齢化が急速に進む我が国において、well-beingとしての健康の在り方を理解し、実践することは重要であるため必修として開設。健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的とし、講義と実習を開講する。

基礎教育科目

それぞれの学問領域（理系）の基礎教育の中で共通教育として提供することが相応しい科目を基幹教育として提供。基本的には、各学部・学域ごとに設定される科目群であるが、他学部・学域からの受講を妨げないものとする。

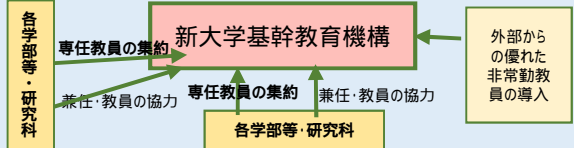
資格関連科目

多様で複雑な能力が今後ますます教員に求められる時代における教員養成課程は大学全体で支えることが必要となっているため、基幹教育機構が教職科目を提供する。



新たな体制整備（基幹教育機構）

基幹教育の企画・運営・決定は、「基幹教育機構」において実施



基幹教育機構の体制と機能

基幹教育機構全体委員会、科目群委員会

- 基幹教育機構全体委員会：
共通科目等の諸課題への対応、基幹教育の重要事項及び基本方針の審議
- 科目群委員会：
各科目群の企画・運営

全学の教育支援機関（予定）

- 教職センター
教員養成機能の全学マネジメント（教職科目のマネジメント、教職課程の3ポリシーの策定支援、教職課程の自己点検評価、外部評価の支援）
- 高等教育研究開発センター
全学の（広義の）FD、教学IR、キャリアデザイン教育・アントレプレナーシップ教育等のプログラム開発
- 国際教育センター
留学生及び日本語を母語（第一言語）としない学生への日本語教育、（留学を含む）基幹教育機構が行う海外語学研修の企画・実施、留学生の生活相談、窓口
なお、基幹教育機構には全学の高大接続改革・入試改善のためにアドミッションセンターの設置を検討する。

(2) 研究

先端的・異分野融合型研究の推進による高度研究型大学の実現をめざす

グローバル研究拠点の形成

新大学の強みの分野、特色ある研究に重点的に投資することや国内外で活躍する著名な研究者の招聘や登用を行うことにより、グローバル研究拠点となることをめざす。
海外の大学及び研究機関との間で、若手研究者や大学院生の派遣及び受け入れを行い、グローバルに活躍できる研究者の育成を図る。

先端研究、異分野融合研究の推進

基礎から応用までの一貫した研究を充実するとともに、新大学の強みにおける最先端研究、分野の垣根を越えた複合的研究・異分野融合研究の開拓に重点的に取り組む。
幅広い領域を有する総合大学の強みを発揮するとともに、医工連携、医農連携などの異分野融合研究を推進する。
環境やエネルギー、安全、安心等諸外国が抱える具体的な課題に対して、実効性ある取組みを推進し、社会で応用できるモデルの構築をめざす。

イノベーション創出拠点の形成

国内外の大学や試験研究機関等と連携し、イノベーション創出拠点の形成を推進する。
大阪の成長戦略を実現するために、自由な発想に基づくテーマ型研究に加え、組織的に取り組む戦略投資型研究の両面から、イノベーションの創出をめざす。

地域課題解決型研究の推進

社会の複雑な問題や研究課題に取り組むため、研究者や専門家が専門横断的に集い、組織的にチームを編成し、文理融合研究・学際的な研究活動に取り組み、地域課題解決型研究を推進し、国際的な研究モデルへ発展することをめざす。

(3) 社会貢献

都市問題の解決や産業競争力の強化による大阪の発展への貢献を行う

大阪の歴史、伝統、文化を支える地域貢献拠点（COC）の形成

大学、初等・中等教育機関、研究機関、行政機関、産業界、医療・保健機関等との連携強化を促進し、大阪における産学官ネットワークの中核的存在となることをめざす。

地域貢献に関する科目を体系的に提供し、地域に関する問題を把握し、その解決策を考える教育プログラムを実施する。

大阪のシンクタンクとして、行政機関の政策企画ニーズと研究者シーズのマッチング機能の強化を図るなどにより、地域課題の解決に貢献する。

生涯学習のニーズの高まりの中で、人々の知的探究心を満足させるだけでなく、豊かな社会生活のために、必要な学びの場を提供する。

COC (Center of Community)

府立大学と市立大学は共同して、地域再生（CR (Community Regeneration)）副専攻を学士課程に設置し、地域貢献に資する教育研究を行うことにより、地域志向の学生育成とともに、大学が地域の拠点としてその発展に寄与することをめざしてきた。新大学においても地域再生（CR）副専攻を設置、地域志向の学生を育成する。

産業活性化への貢献

最先端の研究成果を社会に還元するため、大学の保有する技術を積極的に紹介し、新技術説明会、ニューテクフェアなどの技術発表会を積極的に開催するとともに、地域の金融機関、自治体、商工会議所等の支援も得て、中小企業ニーズを掘り起こし、地域産業の活性化につなげる。経営ノウハウとチャレンジ精神を持った起業家をめざす人材の育成とともに、ものづくり関連中小企業の後継者育成のための人材育成プログラムを実施し、地域の中小企業振興に貢献する。

4 . 国際力の強化

新大学における国際力強化の展開 ~ 統合によるそれぞれの強みの拡大と国際都市大阪への国際貢献 ~


【ポイント】 高度な研究力を基盤とした国際競争力の強化
 グローバル人材を育てる教育プログラムの展開
 海外ネットワークを活用した都市シンクタンク機能強化
 留学生の入口から出口までのサポートの充実
 教職員のグローバルマインド醸成と組織力の強化

海外協定大学等との連携による国際的研究の推進と支援、研究環境の充実
 多様な海外派遣プログラムの展開、英語による教育課程、ダブルディグリーの拡大、英語教育改革
 研究交流・海外ネットワーク・高度技術を生かした地域課題への貢献と国際展開
 多様な留学生の獲得に向けた多様な入試や海外現地入試、留学生の就職支援を含むサポートの充実
 国際競争力強化を目指した、雇用制度、人事計画、研修体系の充実

→ いずれも、国際的大学排名の向上（国際力）に欠かせない要素であり、展開・活動に合わせて積極的に国内外にアピール（レピュテーション 評判調査 の強化）及び サイテーション 論文被引用度 の強化

高度な研究力を基盤とした国際競争力の強化

- 研究実績の高い海外機関との交流推進
- 国際共同研究先と連携した研究へのインセンティブ付与
- リサーチプロフェッサー制度の導入
- 若手研究者の国際学術交流支援の拡大
- 海外協定大学との連携から生まれる新たな大学の知財展開
- 国際シンポジウムの支援の充実
- 交流実績豊富な海外協定大学をベースとする海外拠点構築及び海外協定大学の日本拠点の誘致
- 国際的研究交流の拡大と必要な施設の充実



【現状】	大学間交流協定数	部局間交流協定数	外国人留学生数	留学生の出身国数
府大	135件	28件	293人	22か国・地域
市大	41件	102件	332人	19か国・地域


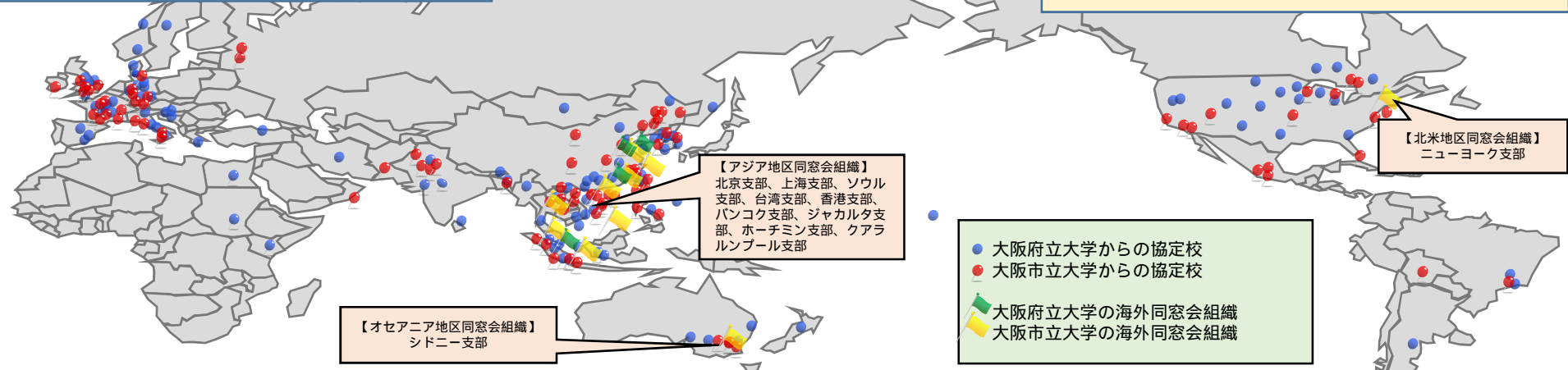
大学統合

【規模】	大学間交流協定数	部局間交流協定数	外国人留学生数	留学生の出身国数
新大学	171件	111件	625人	29か国・地域

国際化規模の拡大 → 強みの拡大へ展開

グローバル人材を育てる教育プログラムの展開

- ステップアップを意識した多様な海外派遣プログラムの実施
- 外国人ゲストプロフェッサーによる講義・学生指導制度の拡充
- 海外留学必須化プログラムの推進
- 英語による教育プログラムの導入（大学院、学士課程副専攻）
- 海外インターンシップの推進
- 海外協定大学とのダブルディグリープログラムの推進（大学院、学士課程）
- 英語教育改革（達成目標の質アップ：基準設定）、基幹教育改革
- ICTを活用した海外大学との連携教育の拡大
- 国際ボランティアの機会の提供





海外ネットワークを活用した都市シンクタンク機能の強化

- 外国人留学生・研究者と地域との交流を通じた地域課題への貢献
- 高度な医療・科学技術・研究成果・教育プログラム等の国際貢献、特に開発途上国向け支援の拡大
- 大阪府、大阪市、堺市等の海外姉妹都市との連携強化
- 在外卒業生・海外同窓会ネットワークとの連携による国際力強化


留学生の入口から出口までのサポートの充実

- 海外協定大学と連携した優秀かつ多様な留学生の獲得
- 国内外でのプロモーション活動、入試の多様化、海外現地入試の拡大
- 海外協定大学からの派遣プログラムやインターンシップ生の積極的な受入
- 留学生宿舎の充実
- 留学生受け入れを促進する教員組織の創設と留学生に対する初級～上級までの日本語教育の充実
- 留学生の日本での就職支援体制の充実



教職員のグローバルマインド醸成と組織力の強化

- 教職員が連携した国連アカデミックインパクトへの貢献
- SDGsを意識した全学的活動の推進
- 海外研修制度創設、人材育成プログラムの充実
- 専門職員だけでなく全学でのグローバル化を推進
- 教員の国際交流活動に対するインセンティブ付与



新大学の世界ランキング向上に向けて

教育研究の質向上と国際化のための投資を行い、強いトップガバナンスにより以下のランキング向上策を実施

1. IR(Institutional Research)組織・機能強化による教育・研究・経営改善向上
2. 論文被引用度（サイテーション）など研究力の分析・見える化と学内・部局内での共有化
3. レビュー（評判調査）向上への広報活動トップマネジメント
4. 国内外の優秀な若手教員の積極的採用とポジション・研究環境の整備
5. 教員の国際交流促進と積極的な国際共同研究・共著論文執筆への支援
6. 外国人留学生受入拡大のための、教育体制の充実と環境整備（学生寮や奨学金制度の充実）
7. 後期博士課程への進学促進施策（奨学金制度の充実、飛び級制度など）

< 2019世界大学ランキング結果 >

市立大学 801-1000群
府立大学 1001+群

両大学の数値を平均すると、
世界 1001+ 位群

➡ ランキング向上に向けた対策が不可欠 ➡ 200位をめざす

《世界大学ランキングを決めるポイント》（THE世界大学ランキングの例）

世界の研究者による評判ポイント（教育15%，研究18%）
研究影響力（教員1人当たりの論文被引用回数：30%）

- ➡ これらがランキングポイント全体の63%を占める
- ➡ **世界大学ランキング向上の鍵は「教育・研究の質向上と国際化」**

< 参考 > THE世界大学ランキングの分野・指標・配点割合

分野	%	項目
Teaching 教育 (教育環境)	30	評判調査<教育>
	4.5	学生に対する教員比率
	2.25	学士課程学生に対する博士課程学生比率
	6	教員に対する博士号取得者比率
Research 研究 (量、収入、評判)	30	評判調査<研究>
	6	研究関連収入
	6	学術生産性
Citations 被引用論文 (研究影響力)	30	論文引用回数
International Outlook 国際性 (教員・学生・研究)	7.5	2.5 自国籍学生に対する外国人留学生比率
	2.5	2.5 自国籍教員に対する外国人教員比率
	2.5	2.5 国際共同研究
Industry Income 産業界からの収入(知の移転)	2.5	2.5 産業界からの研究関連収入

< 2019年 THE世界大学ランキング >
~ 他大学との比較 ~

